R6（2024）年 共通テスト本試『詩林広記』『考古編』

次の文章は、唐の杜牧（八〇三―八五二）の【詩】「華清宮」とそれに関連する【資料】Ⅰ～Ⅳである。

【詩】

華清宮

華清宮（唐の都長安の郊外にある、驪山の温泉地に造営された離宮）。

長安回望繡成堆（ヨリ スレバしう なス たいヲ）

長安から振り返って遠方を望めば、（驪山は）綾絹を重ねたている（ように美しい）

山頂千門次第開（ノ ニ ク）

山頂にある華清宮の多数の門が、次々と開いていく。

一騎紅塵妃子笑（こう ぢん ひ し フ）

ある騎馬が砂煙（を上げ疾走して来る）。（それを見て皇帝玄宗の妃である）楊貴妃はほほえむ。

無人知是荔枝来（シ ノ ル こレ れい しノ タルヲ）。

人々は誰も、これがライチを届けに来た（騎馬である）のだと知らない。

【資料】

Ⅰ『天宝遺事』云（ニいフ）、「貴妃嗜荔枝（き ひ たしなム ヲ ニ）。当時涪州（ふうしう）

『天宝遺事』に記されていることには、「楊貴妃はライチを好物とした。当時、涪州は

致レ貢（スニ こうヲ テシ）以馬遞（ば ていヲ ニ）、

貢物（のライチ）を届けるにあたって（本来は公文書を運ぶ）早馬の中継による緊急輸送で

馳載（ちさいスルコトしちじつしちやニシテ ル）七日七夜（けいニ）至レ京。

運ぶこと、七日七夜（休まず）走らせて、都に到着した。

人馬多斃（クたふレ）於路（みちニ）、ア百姓苦（ひゃくせい シムト）レ之（ニ）。」

人も馬もたくさん道に野垂れ死に、民衆はこれに苦しんだ」と。

東大合格 オンライン 敬天塾

Ⅱ『畳山詩話』云、「明皇致遠物、
『畳山詩話』に記されていることには、「玄宗は遠くのもの（＝ライチ）を取り寄せ、
以悦婦人。
それによって妻（の楊貴妃）を喜ばせた。
窮人力絶人命、有所不顧。」
人力を尽き果てさせ、人の命を犠牲にしても、気にかけないところ（＝傾向）があった」と。
Ⅲ『遯斎閑覧』云、「杜牧華清宮詩尤
『遯斎閑覧』に記されていることには、「杜牧の華清宮の詩は　とりわけ
膾炙人口。拠唐紀、
広く知れ渡っている。　唐の時代についての歴史記録によると、
明皇以十月幸驪山、至春即還宮。
玄宗は十月に　驪山に行幸し、　（翌年の）春になってすぐに皇宮に帰った。
是未嘗六月在驪山也。
したがって、これまで一度も六月には驪山にいない。
然荔枝盛暑方熟。」
それなのに、ライチは夏の一番暑い時期になって初めて熟す」と。
Ⅳ『甘沢謡』曰、「天宝十四年六月一日、
『甘沢謡』に記されていることには、「天宝十四年六月一日に、
貴妃誕辰、駕幸驪山。
楊貴妃の誕生日があり、皇帝の乗り物（に乗った皇帝と楊貴妃）が驪山に行幸した。
命小部音声奏楽長生殿、
宮廷の少年歌舞音楽隊に命令して、音楽を長生殿（という華清宮の建物の一つ）で演奏させ
進新曲、未有名。
新しい楽曲を（楊貴妃への誕生日祝いとして）進呈させたけれども、まだ（その楽曲の）名前は無かった。
会南海献荔枝、ウ因名荔枝香。
ちょうど（その時）南海郡がライチを献上し、そのために、（新曲に）「荔枝香」と名付けた」と。